



経営が満足する



の現場づくりと

次世代TPM[®]講演会

日時

2017年11月10日 金
10:00 ~ 16:40

会場

メルパルク名古屋
(JR・名古屋市営地下鉄「千種駅」そば)

IoTをはじめとする「高度なデジタル化」が加速するなか、依然として、マネジメントや技術・技能の低下が疑問視され続けています。

標準の安定や維持・継続、さらなるレベルアップを図りながら現場を育成するといった“当たり前”が失われつつあります。将来のわが国のモノづくりには、長期的な視野で新技術や構造転換に追随できる強い現場づくりが必須といえるでしょう。

そこで当会では、これからの時代に求められる現場づくりについて考えるとともに、モノづくりの付加価値を高める「次世代TPM生産革新実践プログラム」をご提案する標記講演会を企画いたしました。ぜひ、この機会にご参加いただきたくご案内申し上げます。

プログラム

10:00

開会あいさつ

日本プラントメンテナンス協会 会長 土屋 総二郎

10:10

11:40



基調講演

強い生産現場づくりへ ～モノづくりは人づくり～

河合 満 氏

トヨタ自動車 副社長

1966年トヨタ自動車工業(現:トヨタ自動車)入社。本社工場にて鍛造部長や副工場長を歴任。2013年には技監、2015年に専務役員、2017年より現職。各工場を統括し、生産現場の改善や技術指導、後任育成などにあたっている。当会副会長。

昼食懇親会

12:50

13:50



大竹 一美 氏

豊田合成 顧問

1971年名古屋ゴム(現:豊田合成)入社、オプトE副事業部長(青色LEDの開発・製造)、安全衛生推進部長などを経て、2013年に取締役・専務執行役員。安全衛生・生産管理・生産調査などモノづくりの中核を担い、2016年に現職。当会理事。

現場の見える化

製造部門は、「自律神経の働いた活力のある現場」でなくてはならない。自律神経とは、つねにアンテナが張られ、異常に対して敏感に反応し正常な状態を保つことであり、そのためには「見える化」がもっとも重要となる。本講演では現場に重要な「7つの見える化」の実践例を紹介する。

休憩

14:05

15:25



近藤 隆一郎 氏

日本プラントメンテナンス協会 技監
1965年愛知工業(現:アイシン精機)入社。生産技術・生産管理畑を歩み、TPM・TPSの実践に関わる。2001年に代表取締役副社長、2004年アイシン高丘・代表取締役会長。2008年より当会顧問を経て、2011年より現職。TPM優秀賞審査委員。

モノづくり革新TPMから次世代TPMへ

各社における実証研究をベースにまとめられた「次世代TPM[®]生産革新実践プログラム」は、「3T」(TPM・TPS・TQM/C)の一体化により、生産システムを俯瞰した「リードタイムの極限追求」「徹底的な原価低減」を実現し利益の最大化をねらう考え方である。本講演では、本プログラムの思想・実践について、その概要を紹介する。

休憩

15:40

16:40



野村 重信 氏

愛知工業大学 経営学部経営学科 教授
1981年大同工業大学機械工学科・助教授、1987年オレゴン州立大学経営工学科・客員助教授、1993年愛知工業大学・経営工学科教授、2009年より現職。専門分野は「経営システム」「ロジスティクス」「戦略的モノづくり」。1995年よりTPM優秀賞審査委員。

TPMとTPS そして次世代のモノづくり戦略

日本の現場から生まれたTPMとTPSの考え方は国内・海外に広く普及し、現在ではこれらのシステムを基本として各企業独自のモノづくりを構築し、実践してきている。ここではTPMとTPSの特性を比較しながら次世代のモノづくり戦略について考える。

TPMは公益社団法人日本プラントメンテナンス協会の登録商標です



公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会

Japan Institute of Plant Maintenance

